

ときめき人

Tokimeki bito



思いやりの心で 病院と患者さんを 橋渡し

追町・駒木

大竹 寅夫さん

おおたけ とらお
1940年生まれ 血液型/A B型

Profile

福島県喜多方市生まれ。高校卒業後、電気関係の会社に就職し、東京、イラン、宮城県内各地の転勤を経て、1967年に追町へ移住。

登米市民病院では、「総合案内」などでお手伝いしていただけるボランティアを募集。年齢、性別、経験は問いません。

登米市民病院事務局
☎0220(44)4795



「病院に来る人は、少なからず不安や心配を抱えています。私たちの声掛けで、少しでも安心してもらえれば」と話す、登米市民病院ボランティアの大竹さん。仕事を退職した2009年、「ただ家にいるよりも、健康のために体を動かしながら、地域に貢献できることがしたい」と、病院でのボランティア活動を始め、毎週水曜日に総合案内に立つ。

活動は、月から金曜の午前中。毎日1人はボランティアとして協力ができるように調整しながら、総勢7人で活動している。活動内容は、初診、再診の診療受付や診察室などへの案内、車いす介助といった患者さんの手助けが中心。このほか、クリスマス、ひな祭りなどの季節の行事に合わせて院内を飾り付け、訪れた人を和ませている。

「介助のプロではないので、患者さんの希望全てに応えられないもどかしさもあります」と語る大竹さんだが、ボランティアだからこそ気付いたことがある。それは、車いすに支障がある段差や階段でつまづき、転倒する人の多さだ。それを事務局に伝え、段差は解消。階段の幅を広げ、気付きやすいように色付きのテープを貼り、改善された。ボランティアとして危険箇所や患者さんの要望を把握し、より良い病院づくりへの一翼を担っている。

「誰かのためではなく、自分のために始めた活動。でも、『ありがとう』と言葉をかけてもらえるとやりがいにつながります。健康なうちは続けていきたいですね」。今日も市民病院の入口では大竹さんの笑顔が患者さんを温かく迎え入れる。

編集後記

▼今号も取材を通して多くの人の出会いがありました。創業した人も、これからしようとしている人も前向きでエネルギーを感じました。そういう人たちと話しをしていくと私も元気になります。いつか私も誰かを元気にしてあげられるような存在になりたいと感じました。(高橋)

▼味覚のアトリエを取材。市内産の豚肉と野菜を使った料理が完成し、試食&質問タイムに「今日の料理に合うお酒は」との質問に、「地元のお酒」とシェフ。同じ産地同士の組み合わせは相性がいいのだとか。学んだ料理を澤乃泉で楽しみたいと思いました。(小野寺)

▼台風19号で被災した津山町横山地区へ取材に行ってきました。被災2日後は、まだ家の中が泥にまみれている所が多く、住民やボランティアの皆さんが復旧作業に追われている状況でしたが、皆さん快く取材に応じていただきました。被災地の一日も早い復旧を心より祈っております。(三浦)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>